

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六）公衆（〇四七）二二七二七〇七

# 国鉄・三里塚決戦の爆発で 10万人首切り粉砕・二期阻止・中曽根打倒

動労千葉は九月九日から十一日までの三日間、野栄町・のさか望洋荘において第十回定期大会を開催する。本大会は、七月二六日の監理委答申を期して開始されるであろう「八七年分割・民営化」にむけた十万人首切り攻撃といかに対決するかを決定する、きわめて重要な大会である。全組合員の総決起で断固闘いぬく方針を確立するため、組合員の圧倒的傍聴を訴えるものである。

## 国鉄労働者総決起の時期が到来

監理委は七月二六日に最終答申を発表した。これは、国鉄を食いものにし破綻に追いこんだ歴代政府、財界の責任をタナに上げ、借金の押しつけやローカル線の切り捨てなど、すべての犠牲を国民に転嫁する一方、十万人の国鉄労働者の首を切る、実に反動的なものであり、体制的危機を戦争によってのりきろうとする中曽根の「戦後政治の総決算」をかけた国鉄労働運動解体攻撃にほかならない。

当局は、「答申」を契機に大変な攻撃を開始しようとしている。

すべての国鉄労働者が、自らの生活をかけてたちあがらなければならない時期が到来した。

## 「生首切り」攻撃を開始した当局

当局は、生首切り断行にむけ具体的攻撃にうつてでている。

第一に、駅への助勤者への名札着用強要の攻撃である。

これは「処分」の恫喝をもって名札を着用させ労働者の無力感、屈服をひき出し、いいなりになる労働者づくりを狙うものである。

第二に、所要員と「過員」を区分けし、「過員」を一方的に「業務開発センター」に配転させる攻撃である。

これは、「八七年分割・民営化」一十万人首切りにむけ、「新事業体に残る者」と「特別対策対象者」に区分けするための前段の攻撃である。

第三に、動労「本部」革マルと一体となった動労千葉、国労組合員のページ攻撃である。

動労「本部」革マルは、「過員対策に協力する動労組合員の雇用を守れ」動労千葉、国労組合員の首を切れ」と要求しているが、それだけでは飽き足らず、わが動労千葉組合員を挑発し、「口論」を「業務妨害された」とデッチ上げ、当局に「処分」を要求する暴挙に出ており、自分だけは生き

残ろうと悪辣な手段を使った策謀を強めている。さらに当局は、「三本柱」の強要をはじめ、合理化、権利剝奪、差別・分断攻撃を強め、首切りにむけた凶暴な攻撃を開始しようとしている。

## 動労革マルをけちらし

総反撃にうつてよう

国鉄労働運動が総力をあげて立ち向かわなければならぬ時、内部から団結を乱し、闘いを圧殺しようとするファシスト集団「動労本部」革マルの登場によって、敵政府・国鉄当局は、闘わずしての総体の敗北主義と屈服と闘争放棄を狙って、カサにかかった攻撃を激化させてきている。今日、動労千葉がいかなる方針のもと、どのような闘いを展開するかが決定的に重要となっている。

われわれは、この間の闘いで蓄積したすべての力を出しきり、なんとしても「分割・民営化」一十万人首切り粉砕の闘いを三里塚二期阻止闘争と結合して大爆発させ、反動攻撃の元凶・中曽根内閣打倒にむけ、総反撃にうつてでなければならぬ。

全組合員の圧倒的結集をもって、第十回定期大会の大成功をかちとろうではないか。

## 第10回定期大会の案内

日時・ 9月9日13時 開会

9月11日15時 閉会

会場・ 千葉県匝瑳郡野栄町野手  
国民宿舎・ のさか望洋荘

（交通機関）

総武本線・八日市場駅下車  
送迎バス乗車、車は駐車場有

## 日程変更

8/31の予定が延期となり  
九月十四日 動労千葉第五回労働学校